

環境について

みなさんもう一度真剣に考えてみませんか？

Save The Kikuchi River

終

戦後食糧難の頃、自給でき
る蛋白源として川魚は
貴重なものでした。コイ、

フナ、ナマズ、ウナギなどは菊池川流域では大物淡水魚としてよく食卓を賑わしたのですが、もうひとつタイワンドジョウという大物がおりました。見たこともない人はドジョウの仲間を想像する人が多いかもしれませんが、全く違った種類の魚で、長くてくねくねとした形はドジョウに似ていますが大きさは違います。先日住吉区の『平元則』氏が菊池川の下流で釣り上げたものを持ってこられたのは体長60センチ・重さ3キロもありました。(写真参照)

数十年前までは山鹿市や和水町内の小川の堰などでよく見かけたので、ある程度年配の人はすぐ思いうかべることができるとは思います。最近是非常に個体数が減少し、めったに見なくなりました。

ところで、前述の魚を簡単にタイワンドジョウと言いましたが、この辺りで一般的にタイワンドジョウと言われているのは「雷魚(ライギョ)」であってライギョの仲間には3種類あるようです。すなわちスズキ目タイワンドジョウ科の ①カムルチー②タイワンドジョウ ③コウタイの3種類です。いずれも近縁種で体系が似ているの

で区別が難しいのですが、③は石垣島で報告がありますが熊本県内には居ないようです。それで私達がタイワンドジョウと言っているのは①と②を混同しているようです。両者とも沼や川の淀んだ泥低地の水草の多いところに生息し、魚・カエル・エビなどを捕食するなど生態も形態も非常に良く似ているので、カムルチーとタイワンドジョウの区別は非常に困難です。

タイワンドジョウの斑紋は小さく連続して縦に3列ありますが、カムルチーは大きな菱形の斑紋が不連続に2列になっています。したがってここに掲載した写真はカムルチーではないかと考えられます。

タイワンドジョウは、明治39年に台湾から大坂の堺市に移入されたのが最初で、その後全国に広がりました。カムルチーは朝鮮半島から大正12年に奈良県に移入されたのが最初で、ほぼ全国に分布しています。後で移入されたカムルチーのほうが生存競争で優位に立ったようで、この辺りで見られるのは殆どカムルチーのようです。両者とも獷猛で食欲旺盛、動く物には見境なく襲いかかる性質があります。在来種を食い荒らす恐れがあるので、外来生物法で要注意外来生物に指定されています。



5月18日 『平 元則』氏が菊池川下流で捕獲したカムルチー

ライギョはいずれも空気呼吸ができるので、酸素の少ない水域でも生存可能です。鰓の上部が変化した上鰓(じょうさい)器官と呼ばれる呼吸器官で空気呼吸をすることができます。反面、空気呼吸のできない状態におかれると死んでしまうという魚らしくない魚という変わった性質を持った魚です。日本には食用として移入されたようですが、ライギョの体内には顎口虫(ガクコウチュウ)と呼ばれる寄生虫が潜んでいる場合があるので刺身では食べないほうが良いと思います。中国・韓国・台湾などでは貴重な食材として販売しているようです。

熱中症に注意!!



熱中症は、急激な高温下で、その温度と湿度に体が慣れない時期に多く発生し、熱失神、熱疲労、熱けいれん、熱射病の型があります。

問題となるのは、熱疲労と熱射病です。

症状

熱失神は、血圧が低下して、脳への血流が低下しておこるもので、めまい、失神などの症状がみられ、顔面蒼白となって、脈は早くて弱くなります。

熱疲労は、脱水による症状で、脱力感、倦怠感、めまい、頭痛、吐き気などの症状がみられます。

熱けいれんは、大量に汗をかいたときに水だけしか補給しなかったため、血液の塩分濃度が低下して、足、腕、腹部の筋肉に痛みを伴った痙攣がおこります。

熱射病は、体温の上昇によって中枢機能に異常をきたした状態で、反応が鈍い、言動がおかしい、意識がないなどの意識障害がおこり、熱中症の中では死亡率が高く、注意が必要です。

応急手当

・**熱失神、熱疲労**の場合、涼しい場所に運び、衣類をゆるめて水分を補給すれば通常は回復します。また、血流を促すために足を高くし、手足を体の中心部に向けてマッサージするのも有効です。吐き気やおう吐などで水分補給ができない時は、医療機関での早目の治療をお勧めします。

・**熱けいれん**の場合、食塩水を補給すれば通常は回復します。

・**熱射病**の場合、死の危険もある緊急事態です。早く体温を下げて、集中治療のできる病院へ一刻も早く運ぶことが必要です。

一般的に、熱射病になった場合は汗が出ません。体温を下げるには、直接、体に水をかけたり濡れタオルを当てて扇ぐ方法、または、首、脇の下、足の付け根など太い血管のある部分に氷やアイスパックを当てる方法が効果的です。



有明行政事務組合消防本部 救急課 ☎0968・73・5283

お知らせ



有明消防本部では、119受信からいち早く火災救急現場等を特定するに当たり、地図データを常に最新の状態にしておく必要があります。平成23年3月までに情報収集のため各市町を巡回調査しておりますので、市町民の皆様のご協力をお願いいたします。

なお、制服などを着用していない女性の職員が調査を実施しておりますが、必ず名札を着用しておりますので何かご不明な点などがありましたら消防本部総務課☎0968・73・5252までご連絡ください。